

二〇一三年 一月

「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

今月の言葉

あした

こうがん

ゆっへ

はういっ

朝には紅顔ありて 夕には白骨となれる身なり。

「ごんしやう

『御文章』

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」

『平家物語』の冒頭の文です。祇園精舎とは、お釈迦様が仏教を広められたインドの寺院のことです。鐘の音を引き合いに出して、「すべてのものは変化し、移りゆく」という諸行無常の道理を、言い表している名文です。

今月の言葉では、蓮如聖人がそのような仏教の道理に基づき、「朝には血色のよい元気な顔をしていても、夕にはその命が尽きてしまう」とある「とおっしゃられています」。

大晦日、各地の寺院で除夜の鐘が鳴り響きます。一般的には、一〇八回つかれ、人間の数多の煩惱を表しているとされます。

目先の損得勘定などの煩惱に心を奪われてしまい、本当に大切なものを見失いがちな私たちですが、年の瀬に響いた鐘の声を思い出しながら、今一度噛みしめたいものです。自分のいのちが限りある尊いものであるという「とを」。

※ 訂正とお詫び…「今月の言葉」の短冊には、「夕へには白骨の身となれる身」とありますが、正確には「夕へには白骨となれる身」です。「こに誤植をお詫びいたします」。

今月の聖語

元日や 今日あのいのちに遇う不思議

きむらむそう
木村無相

「リリリリッ、カチッ」

毎朝、もう少し寝ていたいという気持ちとは裏腹に、無情に鳴り響く目覚まし時計。前の晩、「明日は六時に起きるぞ」と意気込んで、時計をセットするわけですが、睡眠をこじ開けるその音を疎ましく感じてしまうものです。

しかしよく考えてみると、夜寝て朝に必ず目が覚めるということとは、誰にもわかりません。もしかすると、そのまま永遠に目が覚めず、次の日のいのちを生きられないこともあるのです。とすれば、朝目が覚めて今日のいのちに遇えることは何と不思議なことなのでしょう。

私たちは元日に特別な意味で祝詞を交わしますが、実は新しいいのちに出遇える毎日こそがめでたいといえるのではないのでしょうか。

新年を迎えることができたよろこびと「今日のいのちに遇う不思議」を年始めの挨拶に込めたいものです。

あけましておめでとっ！いいます。

合掌

宗教教育係